

THE S.P ECO NEWS

☆春号創刊☆

『今日から貴方も ECOしちゃう?』

今回のECO情報 「フードバンキング」

食の安全性が問われる時代であるが、食品自体には問題がないにも拘わらず、包装の損傷によって多くの食品が破棄されている。フードバンキングとは、賞味期限や内容に問題がない食品を業者から寄付してもらい、それを施設などに提供する活動である。アメリカではNPO(非営利団体)が実施しており定着しつつある。日本ではニチレイが梱包の破損した冷凍野菜などの寄付を始めている。世界では多くの餓死者が出ているが、我々日本人は包装など外観を気にして、大量の食糧を破棄している。今こそ日本語である「もったいない」を再考する必要があるのではないか？



「各部門重点管理項目決定」

平成19年度の各事業本部の環境重点管理項目が決定しました。それぞれが事業内容に応じた、特徴ある管理項目となっています。

石油事業本部は昨年に引き続き、環境ハイオクの増販を掲げています。既に60%に肉薄する実績を上げており、これは全国一、いや世界一の偉業と言えるでしょう。また、同本部に属する外商部は、独自の管理項目として省電力オイルの増販を目指しています。

不動産事業本部は、緑化運動の促進や防犯防災対策の強化を実施します。特に防犯防災は同本部が永年取り組んできた業務であり、多くのノウハウを蓄積しているため、全部門の防犯防災強化を牽引すると期待されています。

食品事業本部の重点管理項目は、食の安全管理が注目されています。不二家の賞味期限切れ使用問題が世間から非難されており、その中で食の安全管理を重点管理項目としたことは、当社の2大テーマのひとつで「人間の健康問題」を踏まえていると評価されるでしょう。

最後に経営推進本部ですが、今年が目玉は「環境新聞の発行」です。その主旨は各部門の環境活動報告をすることで情報の共有化を目指すというものです。また、最新の環境情報やコラム欄を設けて、次年度の環境対策のヒントになればと考えています。

その他の内容で瞠目すべきは、毎月開催している環境委員会で、一般社員の参加を受け付けることです。これは、環境問題に対する関心度を高めると同時に、次の環境委員を育てることを目的としているので、大いに活用して下さい。

欧米では棺桶の素材に段ボールを使うことが普及している。従来の棺桶はラワン材を使用しているが、段ボールの原料は北米産の松を使用しており、3分の2の量で生産できる。段ボールを接着するために天然のデンプン糊を使用しているため、火葬の際に出る窒素酸化物の量も従来品より少なく、環境に優しいとされている。これほどまでに環境問題は「ゆりかごから墓場まで」となっている。今や死ぬ時も環境を考える時代となった。

コ・ラ・ム
「ドクターズ」

